大阪府感染症情報センターでは国立健康危機管理研究機構が配信している梅毒の国内発生状況分析情報（https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/syphilis/010/index.html）を参考に、大阪府内における梅毒症例の動向について四半期毎の推移をまとめたものを 2022 年第 1 四半期より四半期毎に配信させていただいております

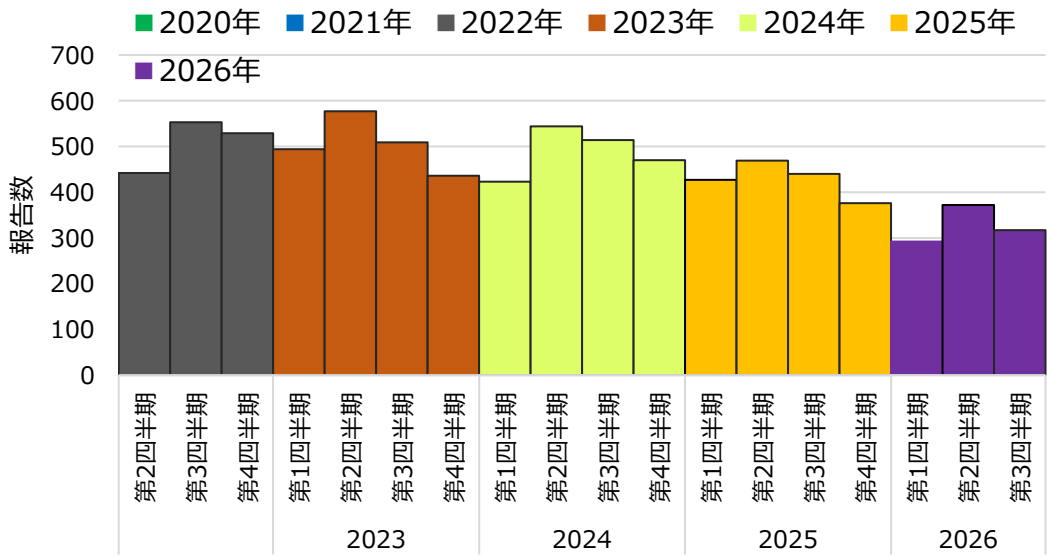
大阪府内で感染症発生動向調査によって届け出られた梅毒の概要　　2026 年 10 月 20 日現在

2025 年第 2 四半期から 2026 年第 2 四半期は、以下の週に該当する

- 2025 年第 3 四半期：第 27 週~39 週（2025 年 6 月 30 日~2025 年 9 月 28 日）
- 2025 年第 4 四半期：第 40 週~52 週（2025 年 9 月 29 日~2025 年 12 月 28 日）
- 2026 年第 1 四半期：第 1 週~13 週（2025 年 12 月 29 日~2026 年 3 月 29 日）
- 2026 年第 2 四半期：第 14 週~26 週（2026 年 3 月 30 日~2025 年 6 月 28 日）
- 2026 年第 3 四半期：第 27 週~39 週（2026 年 6 月 29 日~2026 年 9 月 27 日）

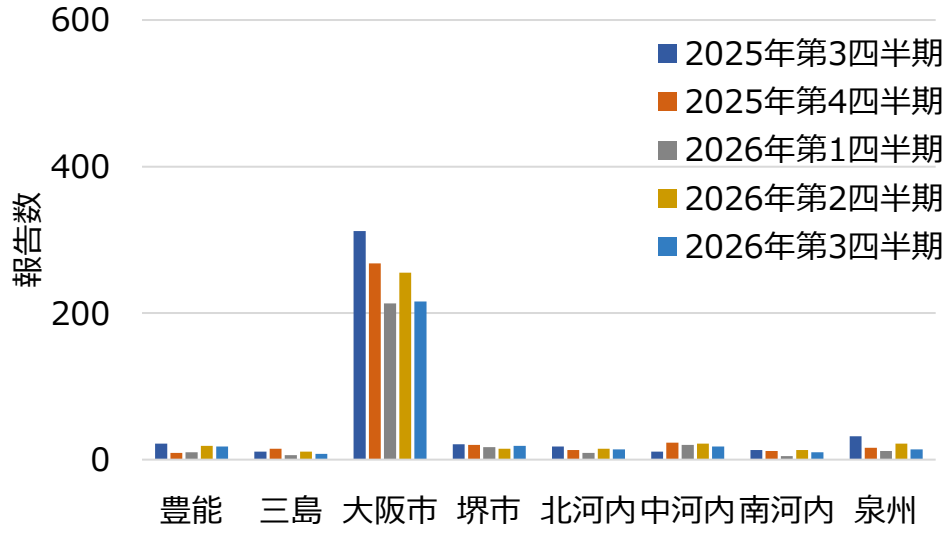
注）2026 年第 39 週までに診断されていても 2026 年 10 月 20 日以降に届け出のあった報告は含まない。

図 1　　大阪府内における梅毒報告数



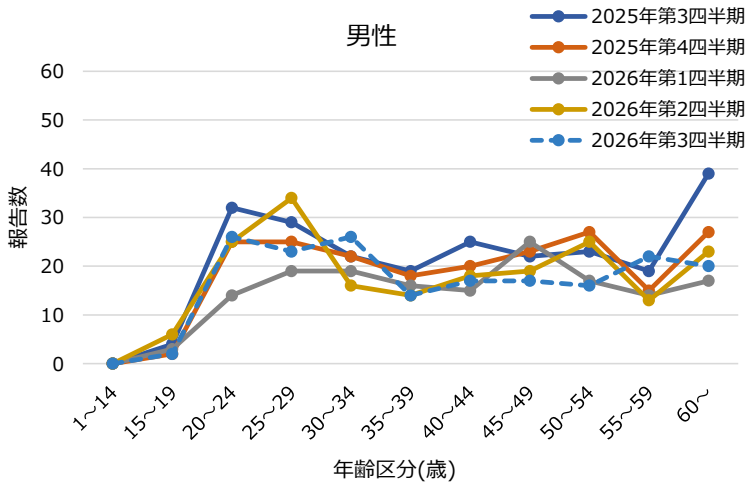
- 2026 年第 3 四半期は 317 例で、2026 年第 2 四半期と比較して報告数が 15%減少した。昨年の同一四半期の報告数からは 28%の減少である。（遅れて報告される場合があることから、特に直近の報告数は今後変動する可能性がある。）

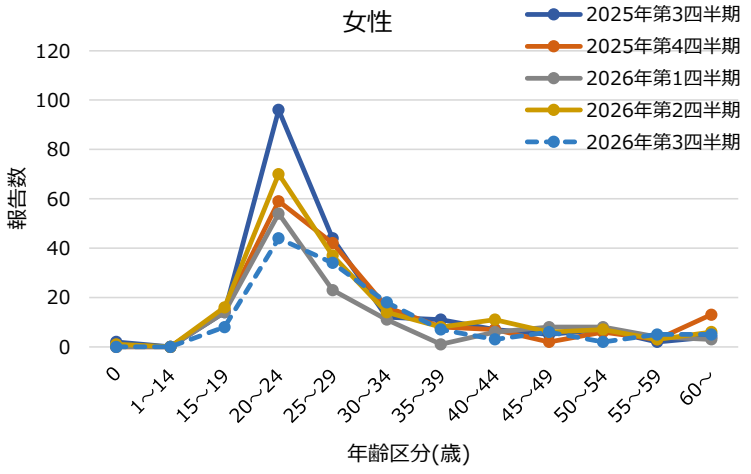
図 2　　ブロック別報告数



- 四半期毎の報告数は全ての期間において大阪市医療圏で最も多い。2026 年第 2 四半期と比較し 2026 年第 3 四半期は 7 ブロックで報告数が減少した。

図 3　　性別年齢分布



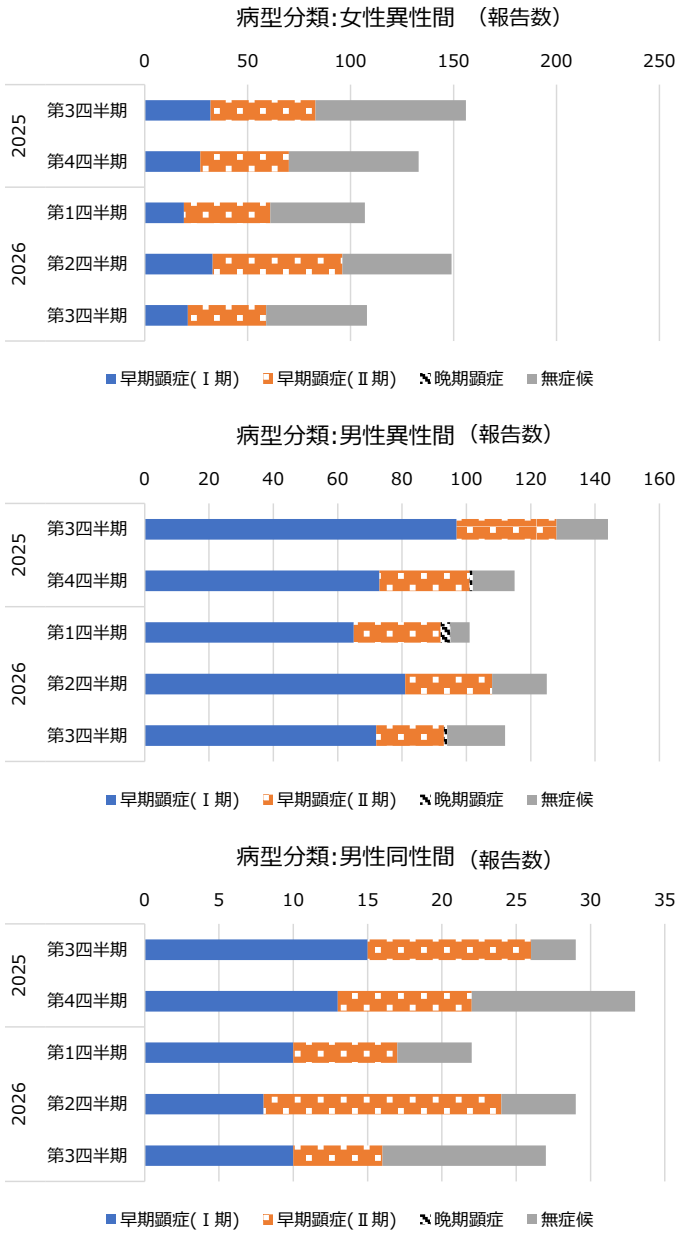


- 2026 年第 3 四半期の男性の報告数は 185 例で、2026 年第 2 四半期の 193 例と比較し 4%減少した。

一方、2025 年同一四半期の 236 例と比較し 22%減少した。20～24 歳および 30～34 歳の報告数が 26 例と最も多く、20 歳代の割合は男性全体の 26%を占めた。

- 2026 年第 3 四半期の女性の報告数は 132 例で、2026 年第 2 四半期の 179 例と比較し 26%減少した。一方、2025 年同一四半期の 204 例と比較し 35%減少した。引き続き 20～24 歳で報告数が最も多かった。20 歳代の割合は女性全体の 59%を占めた。また 10 歳代後半の割合は女性全体の 6%を占めた。
- 20～40 歳代の男性および 20 歳代の女性で報告数が多いことから、後述する先天梅毒の発生を防ぐ観点から、妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、必要に応じた積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられた。
- 男女ともに 20 歳代の報告数が多いことから、10 歳代の若者が性感染症に関する知識を得る予防啓発の機会を増やすことが、重要な対策の一つになると考えられた。

図４　　性的接触歴別、病型の内訳



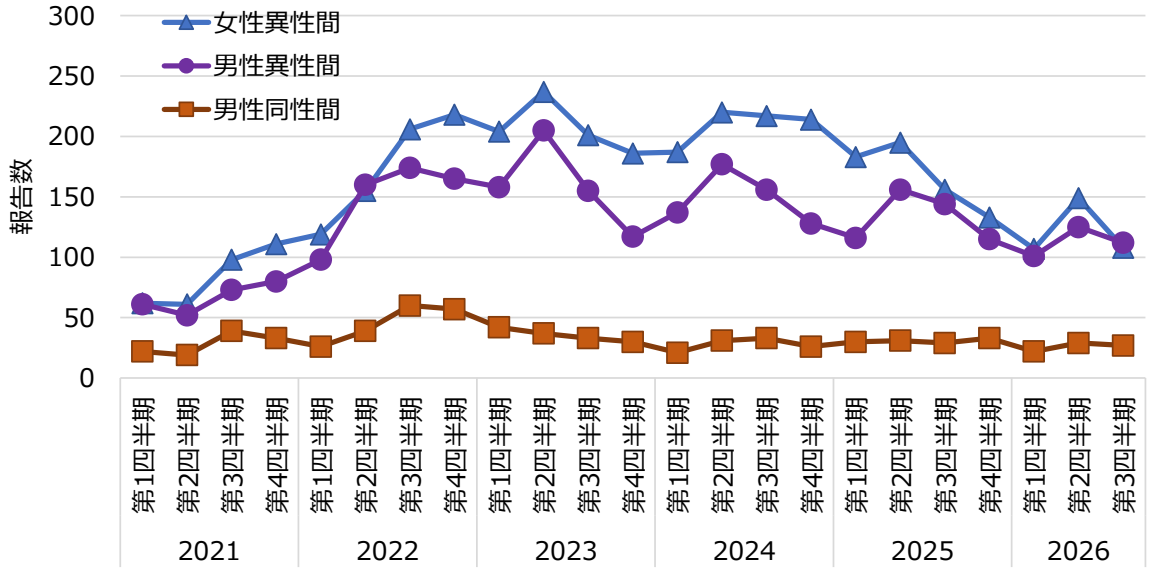
- 2026 年第 3 四半期は無症候での届出の占める割合が女性異性間で 45%（49 例)、男性異性間で 16%（18 例)、男性同性間で 41%（11 例）であった。
- 2026 年第 3 四半期は早期顕症(Ⅰ期)の届出の占める割合が女性異性間で 19%（21 例)、男性異性間で 64%（72 例)、男性同性間で 37%（10 例）であった。
- 2026 年第 3 四半期は早期顕症(Ⅱ期)の届出の占める割合が女性異性間で 35%（38 例)、男性異性間で 19%（21 例)、男性同性間で 22%（6 例）であった。
- 女性異性間は無症候での届出の割合が高く、一方で男性異性間は無症候での届出の割合が低い（2021 年以降の届出に占める無症候の割合；女性異性間 46%、男性異性間 11%)。女性は自発的検査あるいは医師の検査勧奨や妊婦健診など、検診目的の検査で感染が判明している可能性が考え

られ、男性は、梅毒の症状を自認した患者の受診によっての診断が大部分を占め、自発的な検診による無症候性梅毒の検出・診断が少なくなっているものと考えられた。

- 男性同性間は男性異性間と比較し無症候で届出される割合が高いことから（2021 年以降の届出に占める無症候の割合：男性同性間 31%）、受検意識の高さや検診目的の検査による判明が多い可能性がある。
- 梅毒の流行を抑えるには、予防啓発はもちろんのことだが、それに加えて自発的な梅毒検査受検率のさらなる向上が必要である。特に感染の可能性の高い、性的接触機会が多い者に対し、受検しやすい梅毒検査環境を提供するなど、積極的な受検を促し、無症候の感染者の診断と治療による介入を行うことが重要であると考えられた。

注）男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

図 5　性的接触歴別報告数推移



- 2026 年第 3 四半期と 2026 年第 2 四半期を比較すると、女性の異性間性的接触歴のある報告数は 28%減少、男性の異性間性的接触歴のある報告数は 10%減少、同性間性的接触歴のある報告例は 7%減少した。2026 年第 3 四半期を 2025 年同一四半期と比較するとそれぞれ 31%減少、22%減少、7%減少となった。

注）男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

表１　直近６か月以内の性別性風俗産業の従事歴および利用歴

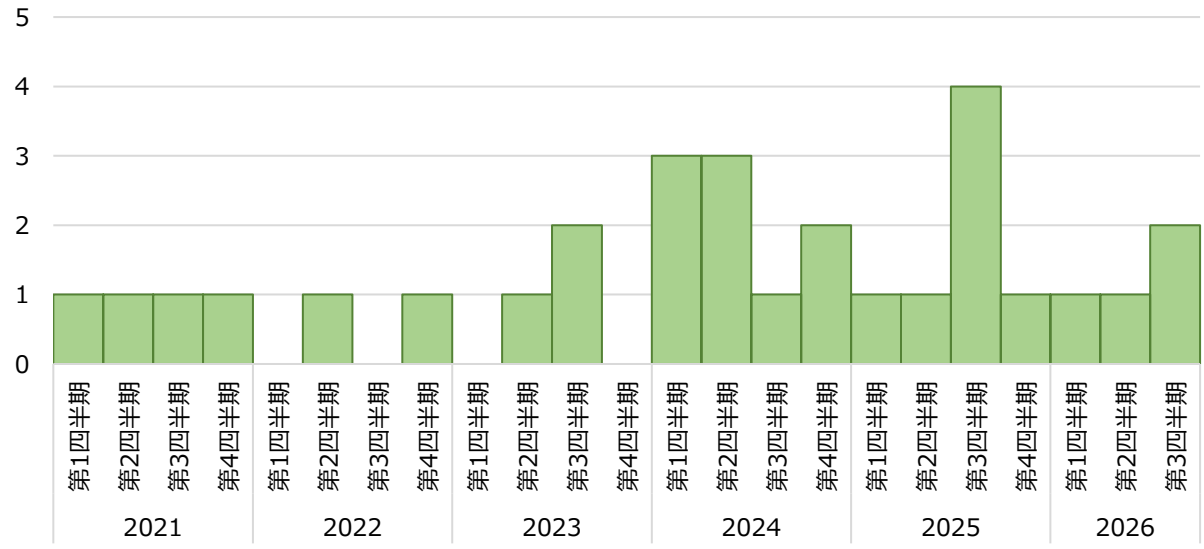
男性		2025年第3四半期		2025年第4四半期		2026年第1四半期		2026年第2四半期		2026年第3四半期	
従事歴	あり	8	3%	7	3%	3	2%	7	4%	3	2%
	なし	127	54%	121	59%	94	59%	111	58%	113	61%
	不明	59	25%	47	23%	36	23%	49	25%	45	24%
	空欄	42	18%	30	15%	27	17%	26	13%	24	13%
	計	236		205		160		193		185	
男性		2025年第3四半期		2025年第4四半期		2026年第1四半期		2026年第2四半期		2026年第3四半期	
利用歴	あり	86	36%	68	33%	55	34%	69	36%	53	29%
	なし	51	22%	62	30%	50	31%	50	26%	62	34%
	不明	60	25%	45	22%	30	19%	50	26%	49	26%
	空欄	39	17%	30	15%	25	16%	24	12%	21	11%
	計	236		205		160		193		185	

女性		2025年第3四半期		2025年第4四半期		2026年第1四半期		2026年第2四半期		2026年第3四半期	
従事歴	あり	95	47%	76	44%	68	52%	73	41%	58	44%
	なし	44	22%	42	25%	26	20%	53	30%	37	28%
	不明	48	24%	28	16%	24	18%	36	20%	23	17%
	空欄	17	8%	25	15%	14	11%	17	9%	14	11%
	計	204		171		132		179		132	
女性		2025年第3四半期		2025年第4四半期		2026年第1四半期		2026年第2四半期		2026年第3四半期	
利用歴	あり	3	1%	0	0%	0	0%	1	1%	1	1%
	なし	85	42%	81	47%	69	52%	88	49%	66	50%
	不明	98	48%	62	36%	47	36%	73	41%	48	36%
	空欄	18	9%	28	16%	16	12%	17	9%	17	13%
	計	204		171		132		179		132	

＊空欄：あり、なし、不明いずれにも記載がない場合
割合(%)は小数点第一位を四捨五入して記載

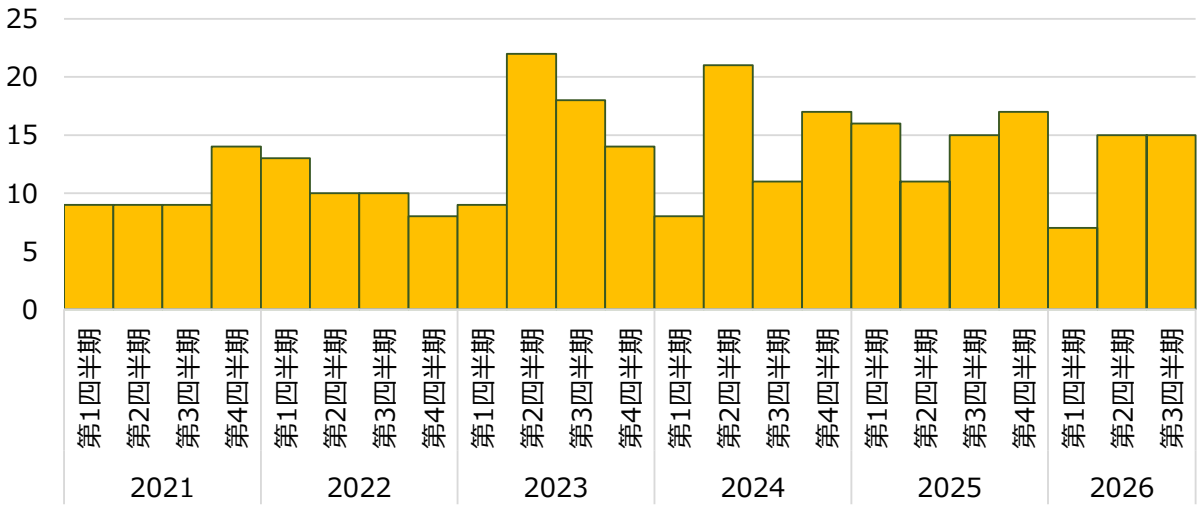
- 男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は 2025 年第 3 四半期以降 29～36%で推移している。
- 女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例は 2025 年第 3 四半期以降 41～52%で推移している。
- 男性のうち性風俗産業利用歴が不明の報告例が 20%程度、女性のうち性風俗産業従事歴が不明の報告例が 10～20%台で推移している。梅毒に対し有効な対策を講ずるうえで、精度の高い疫学情報が不可欠であり、届出時の不明記載の割合を少しでも下げていくことが重要であると考える。

図 6　先天梅毒の報告状況



- 2026 年第 3 四半期に病型が先天梅毒として報告された届出例は 2 例であった。2026 年の累計は 4 例となった。2025 年の累計は 7 例であった。2024 年の累計は 9 例と現行の集計方法となった 1999 年以降最多の報告数であった。

図 7　妊娠例の報告状況



- 2026 年第 3 四半期に報告された梅毒届出例のうち、妊娠例は 15 例であった。2026 年の累計は 37 例となった。2025 年の累計は 59 例、2024 年の累計は 57 例であった。

参考

大阪府感染症情報センター

大阪府内で報告された梅毒届出症例における妊娠例と先天梅毒の報告状況

http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20220623152435.html